伊豆ヶ岳 直登記

ハイキング部　服部

桜の季節が過ぎ新緑の輝く季節になりました。天気予報もしばらく安定して晴れるとの予報を得て、４月 27 日(火)、奥武蔵の名峰「伊豆ヶ岳」ハイキングを企画しました。急な提案にもかかわらず６名の参加がありました。

今回は、正丸駅から登る通常ルートをとらず、名栗げんきプラザに車を置き、裏側からの直登ルートを選びました。ガイドブックによれば、登り１時間、下り１時間の超スピード登山です。ただ、我々の年齢を考慮して、休憩を入れ登り１時間半、頂上でランチタイム 60 分、下り１時間半のゆったりした計画を立てました。

９時 30 分元気プラザ駐車場に２台の車に分乗して集合です。受付で駐車場利用ノートに車両番号氏名などを記入し、トイレを済ませ、準備体操をして、いよいよ出発です。１台が集合時間に少し遅れたこともあり 10 時の出発になりました。

沢沿いの道を少し歩き、すぐ直登です。新緑のなか、確実に高度を稼ぎます。爽やかな空気のなかでも、歩くと汗をかき、衣類の着脱で体温を調整しながら歩きます。時々、かん高い小鳥の鳴き声が聞こえます。自信はありませんが頂上で見かけたシジューカラの声だったのでしょうか。頂上の近くの鎖場のある「男坂」は通れないようにロープが張ってありますが、それを避けて踏み跡がついています。「冒険者」あるいは「怖いもの知らず」がいるんだと思いつつ、我々はう回路（女坂に入って直の途中から分岐して登り始める中間道）経由で登ります。（なお「女坂」も現在崩落の為、通行止めになっていました。）頂上直前の急登部で、こわごわ降りてくる中高年女性３人組をやり過ごし、いざ頂上へ。11:00 到着、なんとコースタイム通りの１時間で登ってきました。

楽しいランチタイム､A さんと D さん持参のコーヒーを頂き､爽やかな空気、新緑、遠くに西武ドーム(正式名称ではないが)、子ノ権現の屋根がきらっと光ります。至福の１時間でした。12：00 いざ下山、山伏峠を経由して車道へ出ました。13:00、なんと下りもコースタイム通りの１時間でした。途中で、20 人位の団体さんを追い抜きました。柏から貸し切りバスを仕立てて来ているのだそうです。さすが、奥武蔵の名峰「伊豆ヶ岳」遠く柏まで名前が届いているようで、自分のことではないが、何となく誇らしい気持ちになりました。

時間が早かったので、帰りは有間ダム経由で戻りました。ダムサイトでは、そのうちここを起点にして「棒ノ嶺」や「蕨山」に行こうかと、もう次の計画に話が及びました。実に爽やかな空気を吸い新緑で眼を癒され小鳥のさえずりを聞き、楽しい一日になりました。今回も例によって、A 先生から「エイザンスミレ」と「キケマン」「ムラサキケマン」のお勉強もしました。次回は５月 25 日、飯能の「柏木山～龍崖山」になるようです。

参考：　伊豆ヶ岳（標高）８５１m。名前の由来は、快晴の日に山頂に登ると伊豆まで見えるからという説や、柚の木が多く生えていたからという「柚ヶ岳説」、山麓で温泉が湧き出ていたからという「湯津ヶ岳説」、さらにアイヌ語説などいろいろな説がある。

山頂直下には男坂という鎖場があり伊豆ヶ岳の名所となっていたが、岩場が崩れやすく危険なため現在通行禁止となっている。また女坂では 2012 年に崩落があり通行止めとなった。山頂からは西武ドーム、空気の澄んだ快晴の日には都心の高層ビル群や浅間山、男体山まで見渡すことができる。

出典　伊豆ヶ岳 - Wikipedia

ここから広い道を離れ長岩峠に向かう山道に入る

さあ、ランチタイムだ!!　　新緑が優しい!（伊豆ヶ岳　頂上部）

山伏峠に向かう下り道

山伏峠の車道に下りてきました

名栗げんきプラザに向かう

キケマンの花

「名栗げんきプラザ」の花々